

### 第三十四回 教研大会山口大会 全体会 挨拶

皆様、おはようございます。

全日本教職員連盟 委員長の郡司隆文でございます。

まず、冒頭に、七月五日六日に九州北部をおそった豪雨により、犠牲となられた方々に哀悼の誠を捧げると共に、被害に遭われた多くの方々に対し、心からお見舞い申し上げます。そして一刻も早く、復興・復旧されますことをお祈り申し上げます。

さて、「美しい日本人の心を育てる」という大会理念のもと、本日三十四回の歴史を積み重ねた全日教連の教育研究全国大会を、ここ山口県で開催できますことを、主催者として大変うれしく思います。

「新しい時代を創造する力を育む教育実践」というテーマのもと、昨日は七つの分科会において、地域や学校、校種や職種を越えて、全国各地の多様な会員による様々な視点からの、質の高い実践発表がありました。また、多様な分野で御活躍の有識者の先生方に指導助言をいただきながら、それぞれの会場で活発な研究協議がなされました。更に、指導助言の先生方には「助言者ゼミナール」で、専門的な立場から講義をしていただきました。

そして本日は、株式会社A and Live代表取締役で、ジャパネットたかた創業者である高田 明先生より、貴重な御講演をいただきます。

さて、ここ山口県は、明治維新胎動の地であります。この「維新」という言葉は、東洋古典『大学』の一節「周は旧邦なりといえども、その命（めい）維（こ）れ新たなり」から日本において創られたと言われていています。日々刻々と変化していく世の中に対し、絶えざる創造をしていくこと、これを「維新する」と言うのだそうです。

江戸末期、欧米列強からの開国要求や、それらに適切に対応できない幕藩体制に対し、吉田松陰先生をはじめとする数多くの志士は、新しい日本を創るために、「維新する」ことに命をかけたのです。明治という新たな時代になっても、「維新する」歩みは、止まることなく、ついには、欧米列強と肩を並べる国になりました。

それから百五十年余の時を経て、現在、高度情報化やグローバル化の波は、再び、新しい時代を「維新する」ことを求めています。私が教員になった二十数年前、携帯電話を持っている同僚はいませんでした。街で外国人を見ることは極めてまれでした。スマホで様々な情報を瞬時に検索し、商品を買ひ、世界中の人々と意見を交換し合う、というような二十数年後の現在の世の中の姿は、全く予想できませんでした。

この様な変化は、今後、より大きく激しくなり、世の中の有り様までも根本的に変革していってしまうことは確実です。そのような中を、私たちが日々接する子供たちは、我が国の将来を担い、新しい時代を創造していかなければならないのです。そして私たち教職員は、そのための力を子供たちに育んでいかなければならないのです。これは、いわば「第二の維新」「教育維新」と言えるのではないのでしょうか。

ここ明治維新胎動の地、山口県において、大会主題「新しい時代を創造する力を育む教育実践」のスタートが切れたことは、時代の必然なのかもしれません。

本大会に御参加なされた会員の皆様方におかれましては、昨日の分科会や助言者ゼミナールで、そしてこれから行われます御講演で得られたものを、御自分のものとされ、これからは学校現場で「教育維新」を継続されることを御期待申し上げます。

全日教連といたしましては、「美しい日本人の心を育てる」我が国の正しい教育の推進のために、教育研究全国大会をはじめ、教職員の資質・能力の向上につながる研修の一層の充実を図るとともに、教育専門職を体現する会員の皆様、思う存分その職務に専念できるよう、学校現場の実情を踏まえた要望・提言活動に真正面から正々堂々と取り組んでまいります。

最後になりましたが、本大会を開催するに当たり、御支援、御協力を賜りました、山口県ならびに下関市をはじめ、地元の関係機関の皆様、そして、主管団体である、山口県教職員団体連合会の皆様に対しまして、心からの感謝を申し上げ、私の挨拶といたします。

ありがとうございました。